

# 2022年度事業報告

## I. 概要

2022年度の住宅着工は、分譲マンションは増加が目立つものの全体では前年度比0.6%減の86.1万戸となった。また、世界情勢の激変等による資材・エネルギーコストの高騰などにより、住宅部品の価格改定を余儀なくされた。

住宅施策においては、2050年カーボンニュートラル実現に向けて建築物省エネ法が改正され、25年度からは全ての新築住宅に省エネ基準への適合が義務化され、30年までには適合すべき省エネ基準がZEH（ゼロエネルギーハウス）水準に引き上げられる。また、21年度からの「こどもみらい住宅支援制度」の継続実施とこれに続く「こどもエコすまい支援事業」、さらに国土交通省・経済産業省・環境省の3省連携による「住宅省エネ2023キャンペーン」などにより、高効率給湯器・高断熱サッシをはじめとした省エネ住宅部品の普及の加速がスタートした。

これらの動きを踏まえつつ、「良質な住宅部品の供給・普及」「優良住宅ストック社会実現に向けた貢献」という当協会（ALIA）のミッション遂行に向け、中期活動計画（2020～2025年度）で掲げた三つの重点項目に、2020年の「住宅部品×SDGs宣言」を踏まえたSDGs達成への貢献を加えた四つの重点項目を中心として、事業活動が社会課題の解決や住宅産業の持続的発展に寄与することを意識しながら、（一財）ベターリビング（以下「BL」）をはじめとする関係団体との密接な連携の下、部会・委員会等において、積極的な事業活動を展開した。また、事業活動の効率化等のため、ペーパーレス化やサーバー・電話回線等の設備改善を行うとともに、部会・委員会等のあり方や収益増の方策についての検討に着手した。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、部会・委員会等の開催や事務局の勤務体制への制約が続いた時期もあったが、WEB会議やテレワークの活用により、事業活動への大きな支障は回避できた。

## II. 主要活動事項

### 1. 良質な住宅部品の供給・普及

#### (1) 環境・健康に配慮した住宅部品の供給・普及

[SDGs 目標：3、6、7、12、13、14、15]

- ① 建築物省エネ法等の改正や、「こどもみらい住宅支援事業」「住宅エコリフォーム推進事業」「こどもエコすまい支援事業」、3省連携による「住宅省エネ2023キャンペーン」等の支援制度について、情報収集と会員への共有を図った。
- ② 断熱性能に優れた外皮仕様について、工務店や一般消費者への普及を進めるためのセミナーを開催した（11月2日）。
- ③ 開口部の熱性能評価プログラム「WindEye」について、性能から商品等を検索する「逆引き計算機能」の運用を開始した（9月）。
- ④ 「住宅における良好な温熱環境実現推進フォーラム」等に参加するとともに、各部会等において活動状況を共有した。

- ⑤ 洗濯機用防水パン、テレビ共同受信システム、給水ポンプシステム、物置ユニットなどのBL-bs 部品を含むBL部品の認定基準の制定・改正に協力し、会員への迅速適切な情報提供や会員各社の意見の取りまとめを行った。
- ⑥ BL部品の普及促進に努めるとともに、ユーザーへのBL部品の認知度向上を図った。

## (2) 住宅・住宅部品に関わる新たな課題への対応 [SDGs 目標：3、8、9、12]

- ① 点検・交換サービスを含めたサブスクリプション型での住宅部品の提供方式の可能性について、2021年度のアンケート調査に引き続き、グループインタビューによる定性調査を行った。
- ② 2050年カーボンニュートラルや省エネ・脱炭素等と、これらに関連する住まい選びや省エネ住宅などについての消費者の評価・行動等についてのアンケート調査を実施した。

## 2. 「住宅部品の点検」を核とした優良住宅ストック社会実現への貢献

### (1) 安全・安心な住宅部品のあり方の追求 [SDGs 目標：12]

- ① 故障時の危険度の大小や点検のしやすさ等の観点からの住宅部品の類型化(2021年度実施)を踏まえ、消費者の行動変容につなげる方策を検討した。
- ② キッチンへの期待度及び食品ロスに関する生活者調査を実施した。

### (2) 適切な維持管理(点検)からリフォームへつなげる仕組みの構築

[SDGs 目標：8、11、12]

- ① 「住宅部品点検の日」活動の一環として、「点検から消費者が快適なリフォームへ～健康的な暮らしを目指して～」をテーマに、第11回シンポジウムをWEB配信で開催した(10月4日開催、約250名が聴講)。
- ② 住宅購入時に既存戸建住宅が選択肢に入るための「魅力点」を発見するための個別インタビュー調査を実施した。
- ③ 「自分で点検!ハンドブック」の宝くじ助成版を作成し配布した。
- ④ 点検啓発キャラクター「ジュウテンジャー」ぬりえキャンペーンを実施した(応募総数85件)
- ⑤ 東京都WEB交流フェスタ(東京都消費者月間事業)にWEB上のブース(ALIAサイト、クイズラリー)を出展し、住宅部品点検に対する啓発等を実施した(WEB公開期間:10月21日~1月20日)。
- ⑥ (一社)住宅生産団体連合会(以下「住団連」)、(一社)住宅リフォーム推進協議会(以下「リ推協」)、(一社)ベターライフリフォーム協会等の関係委員会に参画し、リフォーム推進に関する情報収集と会員への共有を行った。

## 3. SDGs 達成への貢献 [SDGs 目標：全般]

- ① 会員各社のSDGsへの取組状況について、2020年に続き、アンケート調査により把握した。
- ② 社会問題分野でのSDGs達成に貢献するための「ALIAこども応援プロジェクト」について、「こども食堂」への支援方法等の詳細検討に向けて、ニーズ把握アンケ

ート（回答 200 団体）、先行モデルケース（5 団体に 6 種類の商品・サービス等を提供）を実施した。

- ③ 2023 年度からの本格実施に向けて、会員に対し提供商品・サービス等の登録を依頼した（2023 年度分として、11 社から 19 種類、計 135 団体への商品・サービス等提供を登録）。

#### 4. 情報発信・政策提言・提案の強化〔SDGs 目標：17〕

- ① 機関誌（ALIA NEWS）を年 4 回発刊した。特集では、住宅における省エネ、レジリエンスなど重要なテーマを取り上げるとともに、ALIA の事業活動、住宅業界や会員の動向などの発信に努めた。
- ② タイムリーな情報発信のため、月 1 回のメールマガジンの配信充実に努めるとともに、住宅部品基礎知識サイト「アメニティ Cafe」と住宅部品点検スペシャルサイト「ジュウテン」について、YouTube の活用を含め、内容を充実した。
- ③ 「2022 年版住宅部品統計ハンドブック」を編集・発行した。
- ④ 研究成果の会員等への提供等のため、事業成果物を発行するとともに、BL と合同で「BL・ALIA 研究成果合同発表会」を開催した（7 月 28 日）。
- ⑤ 住団連・リ推協など関連諸団体との連携活動を継続し、国への制度改善の提案、調査研究等を実施した。
- ⑥ SDGs 達成への貢献や「ALIA こども応援プロジェクト」に関する情報発信の一環として、ジャパンホーム&ビルディングショー2022（@東京ビックサイト）において「住宅設備・建材と SDGs」と題するセミナーを開催した（10 月 28 日）。
- ⑦ 住宅関連の法制度、補助、融資、税制等に関し、関連諸団体と連携しつつ迅速・的確な情報収集と会員への情報提供を行った。

#### 5. 収支構造の改善

- ① 事務経費削減等のため、円滑な部会委員会運営に配慮しつつ会議資料のペーパーレス化を順次進めるとともに、サーバー・電話回線等の設備改善を行った。
- ② 事業活動の効率化・合理化に向けた部会・委員会等のあり方や収益増の方策についての検討に着手した。

### III. 事業企画部会〔SDGs 目標：全般〕

- (1) 事業計画や予算など、運営委員会への付議事項について検討を行った。
- (2) 会議資料のペーパーレス化、サーバー・電話回線等の設備改善、部会・委員会等のあり方や収益増の方策についての検討を行った。
- (3) 住生活関連の法令・制度、助成策、金融政策、税制等に関し、情報の収集と対応方針の検討を行った。

### IV. 広報部会〔SDGs 目標：全般〕

国策等情報の収集とタイムリーな発信を行うとともに、ALIA 事業の認知度向上を目指し、各部会・委員会と効率的に連携した広報活動を進めた。

- ① ALIA NEWS の発行（年 4 回）
- ② WEB サイトの充実・活用

- ③ 広報イベントの実施
- ④ 研究成果発表会の開催

なお、住生活月間中央イベントについては、企画運営委員会を通じ情報収集と連携を図ったが、出展（@札幌市）は見送った。また、SDGs 推進部会と連携し、「こども応援プロジェクト」等の対外的情報発信の準備を進めた。

#### 【ALIA NEWS編集委員会】〔SDGs 目標：17〕

ALIA NEWS を季刊で4回編集・発行した。

- ① 春号 (VOL. 175 : 2022年5月20日発行) : 特集「住宅における省エネ (2050年カーボンニュートラル達成に向けて)」
- ② 夏号 (Vol. 176 : 2022年8月10日発行) : 特集「レジリエンス」
- ③ 秋号 (Vol. 177 : 2022年11月20日発行) : 特集「住宅部品の長期使用と安全点検」
- ④ 新年号 (Vol. 178 : 2023年1月20日発行) : 特集「2023年を迎えて」

特集テーマのほか、巻頭言、ALIA 及びBLの活動紹介、行政の動き、会員各社及び団体の事業活動や新技術・新製品紹介等を掲載した。

#### 【WEB企画・管理委員会】〔SDGs 目標：17〕

会員相互の理解や交流、また会員内外への情報提供を充実させるため、担当部会等と連携して下記事業を実施

- ① ALIA の主要行事や活動内容の発信として、2022年度理事会・総会報告、「協会案内」更新、「BL・ALIA 研究成果合同発表会」開催報告、「アメニティ Cafe」更新、「第11回住宅部品点検の日シンポジウム」開催報告、「宝くじ協会助成事業紹介ページ」作成、住宅情報発信サイト「LIFULL HOME'S PLESS」での「自分で点検！ハンドブック」紹介、プレスリリース配信サービス「PR TIMES」を活用したイベント告知（住宅部品点検シンポジウム、ジュウテンジャーぬりえキャンペーン）などを行った。
- ② WEBサイトの充実として、担当部会等と連携し、新規コンテンツ「ALIAのSDGsへの貢献活動」作成サポート、点検推進活動における既存情報のWEBコンテンツ化の検討・実施、「自分で点検！ハンドブック」チェックリストのWEBコンテンツ化推進、シンポジウム協賛団体の活動紹介記事の企画・検討などを行った。
- ③ WEBサイトの管理として、「アメニティ Cafe」更新ルールの見直し、アクセスログの把握・分析・報告、会員サイトの古い情報の整理を行った。
- ④ ALIAの活動を紹介する月一回の定期メールマガジンを企画・配信した。

#### 【イベントWG】〔SDGs 目標：12、17〕

(1) 「第11回住宅部品点検の日シンポジウム」の開催等（住宅部品点検推進部会と連携）

- ① 日時：2022年10月4日（火）14：15～16：50（BL会議室からWEB配信）
- ② テーマ：「点検から消費者が快適なリフォームへ～健康的な暮らしを目指して～」
- ③ プログラム

1) 基調講演『「点検」を文化にするための道筋』（ルームクリップ株式会社 高重正彦 代表取締役）

## 2) パネルディスカッション

- ・テーマ案「点検から省エネリフォーム、健康的な暮らしに繋げるには？」
- ・メンバー：明治大学 向殿名誉教授ほか

- ④ 後援：国交省等 5 団体、協賛：ベターリビング等 37 団体（新規協賛：（一社）日本建材・住宅設備産業協会）
- ⑤ 参加者：253 名（会場の登壇者・スタッフを含む、1 アドレスは 1 名とカウント）
- ⑥ 告知方法等：ALIA ホームページでの告知・動員と、ホームページを使った申込受付・管理を実施するとともに、プレスリリース配信サービス「PR TIMES」を活用した広報活動を実施した。また、次回以降の開催検討に活用するため WEB 方針での参加者アンケートを実施

## (2) 「B L・ALIA 研究成果合同発表会」の運営

- ① 日時：2022 年 7 月 28 日（木）14：00～17：20（WEB 併用）
- ② 発表テーマ：B L 2 テーマ、ALIA 2 テーマ
- ③ 講演「これからの求められるレジリエンス住宅とは（東京大学大学院 清家 剛教授）」
- ④ 参加者：約 150 名

## V. 専門部会

### 1. 消費者・制度部会〔SDGs 目標：8、9、12、17〕

#### (1) 住宅部品と消費者との係りの調査・研究

- ① 趣旨：2021 年度調査結果を踏まえ、住宅設備のサブスクリプションサービス（住宅サブスク）実現の可能性を検証
- ② 調査概要
  - ・具体的な住宅設備 6 種類でのサービス案・費用・メリットを提示して、グループインタビューを実施（利用意向別に 2 グループ・各 4 名）
  - ・実施時期：2022 年 12 月 9 日 16～21 時

(2) 消費者とのコミュニケーション方法に関する知見を深めるため、「東京ガス がすてなーに ガスの科学館見学」を訪問し、都市ガスとガス機器の歴史、都市ガス特性、製造・供給の仕組、SDGs 紹介コーナーを中心に見学した。

(3) 補助事業における木造 ZEH の取扱い、住団連からの建築規制合理化要望提案、木造 ZEH 水準の壁量基準案等の建築行政・制度情報について、委員会内で共有した。

(4) 2021 調査（住宅設備のサブスクリプションサービスの受容性調査）の結果概要を、B L・ALIA 研究成果合同発表会（7 月 28 日）で報告するとともに、ALIA NEWS（2022 年夏号）で報告した。

### 2. 環境部会〔SDGs 目標：3、7、11、12、13、14、17〕

#### (1) 調査研究事業

- ① テーマ：「2050 年カーボンニュートラルに向けての消費者の意識調査」

#### ② 調査概要

- ・インターネットを通じたアンケート調査で、本調査全 16 問中 5 問は 2016 年の「住宅の省エネ化の推進に係る一般ユーザーの意識調査」と同一とし、消費者の意識変化も確認

- ・サンプル数：800（多様な年代・居住形態を網羅）
  - ・アンケート実施期間：2022年10月14日～10月18日
- (2) 国や関係団体からの情報として、住宅エコリフォーム推進事業、建築物省エネ法の改正内容、東京都省エネ・再エネプラットフォーム、こどもエコ住まい支援事業、住宅省エネ2023キャンペーンなどに関する情報を共有した。
  - (3) 車の歴史、ガソリンエンジンに代わる新たな動力源などを展示する愛知県長久手市の「トヨタ博物館」（クルマ館・文化館）を視察した（11月25日）。
  - (4) 2021調査（生活者の購入意向調査）の結果概要を、BL・ALIA研究成果合同発表会（7月28日）で報告するとともに、ALIA NEWS（2022年夏号）で報告した。

### 3. リフォーム・施工部会〔SDGs目標：8、11、12、17〕

- (1) 住団連の住宅ストック委員会・研究会及び技能者問題委員会に参加し、買取再販の深堀調査、部分断熱についての検討、石綿対応状況調査、CCUSの取組み、働き方改革等に関する情報共有を行った。
- (2) リ推協の市場環境整備委員会・税制施策WG、広報委員会・情報発信WG及び新事業モデルWGに参加し、2023年度税制・予算要望、住宅リフォーム実態調査、ホームページからの発信検討、リフォーム事業店の活動調査等について情報共有等を行った。
- (3) 2024年度に向けたリフォーム関連の予算・制度改正等要望をとりまとめ、7件の要望を提出した（ALIA全体で9件）。
- (4) 住団連・リ推協からのアンケート調査に対応した（買取再販、石綿、CCUS等）。
- (5) 調査研究事業の実施
  - ① テーマ名：「既存戸建て住宅が選択肢に入るための“魅力点”調査」
  - ② 調査概要
    - ・2021年度調査で導き出された「まずは購入時に既存戸建住宅が選択肢に入ることが重要」というポイントを踏まえ、選択肢に入るための「魅力点」の発見を目的に、個別インタビューを実施（4名各1時間）
    - ・実施日：11月24日（木）及び11月28日（月）
- (6) 長谷工マンションミュージアム及びKDDIミュージアムの視察を行った（12月5日）。
- (7) 2021調査「既存戸建住宅への住み替えに関する生活者の意識調査」の結果概要を、ALIA NEWS（2022年春号）で報告するとともに、住団連住宅ストック委員会にて報告し意見交換を行った（2022年7月）。

### 4. 住宅部品点検推進部会〔SDGs目標：11、12、17〕

- (1) 点検の必要性の周知・点検普及啓発活動として、①BLR協会向けセミナーの実施、②点検実態把握調査の共有、③「ジュウテンジャーぬりえキャンペーン」の実施、④（公社）全国消費生活相談員協会中部支部向けショールーム研修会の実施、⑤東京都WEB交流フェスタへの参加などを行った。
- (2) 第11回「住宅部品点検の日シンポジウム」について、テーマを「点検から消費者が快適なリフォームへ～健康的な暮らしを目指して～」として実施した。振り返りでは連続性・継続性がないことが課題として抽出され、次回の方向性審議として

- シンポジウムのターゲットと伝えたいことを明確にした。なお、2012年の「住宅部品点検の日」制定宣言は変更せず、これを基本理念とすることを共通認識とした。
- (3) 部会としての活動ビジョンを明確にするため、点検普及検討WGを設け、脱炭素やSDGsという社会課題を考慮しつつ、シンポジウムの利活用という軸も新たに加え、2030年までの中長期計画を検討した。なお、点検普及検討WGでは、宝くじ助成事業による「自分で点検！ハンドブック」無償版の改訂等も審議した。
- (4) 点検のあり方を検討し、有用な情報発信・提案を行うため、点検は安全・コスト・長持ちにつながるということを消費者に働きかける活動の検討、昨年度整理した「点検行動の分類・類型化」の深掘検討などを行った。

### 【点検普及ビルダー対応委員会】〔SDGs 目標：11、12〕

- (1) 「自分で点検！ハンドブック」及び「住宅部品経年劣化スタディブック」を用いたビルダーへの更なる普及啓発策の検討・実施
- ① 2021年度に続きBLR協会向けセミナーを計画・実施した。
- ・BLRからの要望を踏まえ、ビルダー・リフォーム店6社へのヒアリング結果を反映して、「顧客関係強化に役立つ経年劣化セミナー」と題して実施(3月27日)。
  - ・WEB配信で実施し39名が参加。アンケートでは94%が経年劣化に詳しくなることが居住者との関係強化に必要と回答。引き続きこの方向で啓発セミナーを継続する予定とした。
- ② (一社)日本ツーバイフォー建築協会より2023年度の会員向けセミナー開催の相談があり、BLR協会向けセミナー内容を紹介し、同じ内容をベースに2023年5月と10月に実施することで合意した。
- (2) 点検普及に向けた戦略検討のため、点検の実態把握を目的にWEBアンケートによる市場調査を実施した。
- (3) 啓発ツールの販売実績
- ・「自分で点検！ハンドブック」：685部(新規3社、レポート5社)
  - ・「住宅部品経年劣化スタディブック」：15部
  - ・別途、BLRセミナーでのツール提供(各44部)

### 【点検普及消費者対応委員会】〔SDGs 目標：11、12〕

- (1) 消費者関連団体と連携した消費者への普及啓発活動
- ① 東京都WEB交流フェスタ2022
- ・コロナ禍でWEB開催となり特設サイトのウェブースに出展(期間：10月21日～1月20日)
  - ・クイズラリー企画にも参加し、「住宅部品点検の日」の紹介を行うことで、同サイト訪問者へのALIAサイトへの誘導・情報提供を行った。
  - ・総PV数は27,068件、うちクイズラリーPV数は5,748件(21.24%)
- ② (公社)全国消費生活相談員協会
- ・中部支部(名古屋)を対象に住宅部品ショールーム研修会をTOTO名古屋SRにて開催(8月10日、15名が参加)。
  - ・「点検啓発チラシ」や「自分で点検！ハンドブック」等の点検に関するツールを紹介し、自己点検の実現性や点検情報の伝達・浸透の促進策に対して貴重な意

見交換を行った。

- (2) 消費者啓発のための「ジュウテンジャーぬりえキャンペーン」の企画・実施し、ぬりえ作品を「ジュウテン」サイトに掲載した（ぬり絵台紙は2種類）。
  - ① 対象者：幼・保育園児～小学生（日本国内）
  - ② 公募期間：2022年9月1日～2022年10月31日
  - ③ 応募総数85件（2021年度比1.7倍）

#### 【業界連携委員会】〔SDGs 目標：11、12、17〕

- (1) 普及・啓発活動の継続・発展  
「住宅部品点検の日」シンポジウムの新たな協賛団体の獲得に向けた活動の結果、（一社）日本建材・住宅設備産業協会（建産協）が加わった。
- (2) 委員会活動の新たな展開や活動の拡がりを目指した取組み
  - ① これまでの活動内容や経緯等を整理するとともに、今後の新たな活動の展開や拡がりを目指した取組みについて検討した。
  - ② 各協賛団体との連携を深掘りするための下準備として、各協賛団体のツールの整備状況やイベントの開催情報の他、団体での「〇〇の日」やキャラクター等の設定について状況調査を実施した。得られた情報は、WEB企画・管理委員会に提供した。
  - ③ 「ジュウテン」サイトへのリンク掲載やツールの提供を募集した結果、新たに（一社）日本冷凍空調工業会へのリンクを設定した。
  - ④ 「ジュウテン」サイトの充実・改善に向けて、各団体ツール掲載部分のコンパクト化と、「自分で点検！ハンドブック」の空間別リストから入るルートの設定をWEB企画・管理委員会へ提案した。
  - ⑤ 「住宅部品点検の日」シンポジウムの協賛獲得のためだけでなく、今後の連携した活動への発展も念頭に、住宅部品関連に限らず広く関係団体を調査し、その中から複数の団体に対してシンポジウムも含めてALIAの活動紹介等を行うなど、今後の関係構築に向けて取り組んだ。

#### 【住宅部品点検研究委員会】〔SDGs 目標：11、12、17〕

- (1) 2021年度に行った住宅部品の「点検行動の分類・類型化」を踏まえて、消費者が自主的に点検する、あるいは、行動変容を起こすための働きかけについて、ユーザーの行動に結び付く課題として「安全である」「安定的に使える（機能を維持している）」「コストが安い・得をする」の3つのポイントに絞り込みを行い、2023年度に深掘りを行うこととした。
- (2) 消費者への点検実施の提案（新点検ツールの提案等）に向けて、他団体のツールや冊子などについて、点検に関する内容の協議を行い、2023年度も引き続き調査・情報収集を行うこととした。
- (3) 住宅価値を高める（品質維持）、あるいは住宅部品の取替を促進する点検のあり方を検討し、その先にはリフォームにつなげていくという視点で、点検の必要性のメリット、デメリットの見極め方などを討議し情報共有し、2023年度は引続きリフォームに関連する内容について深掘りを行うこととした。



## 5. SDGs推進部会〔SDGs目標：1、2、3、4、5、10、11、16、17〕

会員各社とALIAの社会貢献の一層の明確化による社会的認知度の向上に向けて、各社のものづくりを通じた取組ではカバーし難い社会課題（個社・ALIA部会等で取組が進んでいない分野）を中心にALIAとしての活動を推進する「SDGs推進部会」を設置した。また、「こども食堂」を整備・運営するNPO等への支援を確実に実施・フォローアップするため、部会の傘下に「こども応援プロジェクトチーム」を設置し、活動を開始した。

(1) 会員各社のSDGsへの取組状況について、2020年に続きアンケート調査により把握した。

(2) ALIAこども食堂応援プロジェクトの取組について

- ① 内閣府の設置した「マッチングネットワーク推進協議会」の「こども食堂」支援を担当する「特定非営利活動法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ」を通じて、「こども食堂」運営主体（NPO等）へのニーズ把握アンケートを行った（回答200団体）。
- ② また、先行モデルケースとして、「むすびえ」を通じて、ニーズ把握アンケートにおいて商品・サービス等の提供希望の回答があった団体に打診し、提供企業と確認の上、支援を行った（5団体に対し、6社から計6種類の商品、サービス）。
- ③ 2023年度からの本格実施に向けて、実施要綱を定めるとともに、先行モデルケースの状況を加味した実施細則（案）を作成した（手続きフローや、支援先公募時フォーマット、申込書・贈呈書・受領書、募集時の情報発信内容のイメージ等を含む）。
- ④ 2023年度の本格実施に向けて、会員に対し提供商品・サービスの登録を依頼し、2023年度分として、11社から19種類、計135団体への商品・サービス提供の登録があった。

(3) 積極的な情報発信の検討

- ① ジャパンホーム&ビルディングショー2022（@東京ビッグサイト）において、「住宅設備・建材とSDGs」と題するセミナーを開催した（10月28日）。
- ② 広報部会と情報を共有しつつ、ALIAホームページに掲載するSDGs活動紹介ページの概要、構成案を確認した。なお、当該特設ページは、2023年春、支援先公募時の記者会見と同時に開設する予定。

## VI. 空間等別部会・部品別委員会

### 1. トイレルーム部会〔SDGs目標：3、6、7、8、12、17〕

#### 【温水洗浄器委員会】【洗面化粧ユニット委員会】

- (1) 「アメニティCafe」の「トイレルーム」「水栓金具」の改訂内容について協議し概要を決定した（反映は2023年度上期予定）。
- (2) 非接触水栓に関するBL認定基準作成に関し、関東院大学大塚先生の菌の流れ落ちの研究成果が出てから（2023年度以降）BLとして動き始める、との情報を共有した。
- (3) 東京都の本所防災館（都民防災教育センター）を見学した。消防士OBの方の案内で、地震体験、消火体験、煙の中の避難体験、都市型水害のドア水圧体験を行い、日頃の防災意識を見直す良い機会になった。

## 2. バスルーム部会 [SDGs 目標：3、6、7、9、12、17]

### 【浴槽委員会】【浴室ユニット委員会】

- (1) B L 認定基準等に関し、「洗濯機用防水パン」「洗濯機用サイホン排出管(可変式洗濯機設置台)」の改正スケジュール、「シャワーユニット」の新基準作成着手の情報共有を行った。
- (2) B L の「ガスとお湯の 50 年」及び「良好な温熱環境実現推進フォーラム」の取組内容などを共有した。
- (3) リンナイ(株)から講師を迎え、「マイクロバブルを使った入浴法」と「ウルトラファインバブル給湯器」についての WEB 講演会を開催した(10月27日)。
- (4) 昨年度より取り組んでいた入浴実態と健康入浴の実施意向調査について報告書が完成し、関係者へ共有した。
- (5) 東京都水道歴史館において、東京の水道の歴史や技術を実物資料や再現模型、映像資料などを見学した。
- (6) 運動・温泉入浴・休養を組み合わせた、厚生労働大臣認定健康増進保養施設であるクアハウス基点(山形県村山市)において、ヘルスアッププランの一部体験を行った。

## 3. リビングルーム部会 [SDGs 目標：11、12、15、17]

### 【階段・はしご段委員会】【内装システム委員会】【内装ドア委員会】

- (1) B L 認定基準の改訂状況、「ガスとお湯の 50 年」発刊等に関して共有した。
- (2) 日本繊維板工業会「JIS A 5905 繊維板 及び JIS A 5908 パーティクルボード」改正委員会への使用者側委員を派遣し、改訂案について情報共有いただいた(JIS 改訂は 11 月実施済)。
- (3) 「内装建材の警告表示に関するガイドライン」の改訂を行い、ハザードピクトグラムの掲載と内容の見直しを完了し、改訂版を ALIA ホームページに掲載した。
- (4) クリーンウッド法の 5 年目の見直しに関連して林野庁が開催した「合法伐採木材等の流通及び利用に係る検討会」の中間とりまとめ及び第 9 回検討会の内容の共有を行った。
- (5) 京セラ文化施設(稲盛ライブラリー、ファインセラミック館、京セラギャラリー)の見学会を開催し、歴史と創業者の教を学んだ。

## 4. キッチンルーム部会 [SDGs 目標：6、7、11、12、17]

### 【キッチンシステム委員会】【調理用加熱機器委員会】

- (1) 「料理に興味を持った世帯のキッチンへの期待度調査」を WEB アンケートにより実施した。
- (2) B L 認定基準の改正・新設や書籍刊行などについて情報共有した。
- (3) 「K's tec」(滋賀県愛荘町)小杉裕紀社長と WEB でリフォーム情報交換会を行い降雪地帯での断熱性能にこだわった提案など、商談スタイル・施工・商品についての意見や業界への要望を聴取した。
- (4) 「アメニティ Cafe」のキッチンサイトを、一般ユーザー向けに構成を一新した。
- (5) サントリー山崎蒸留所(大阪)、島津製作所創業記念資料館(京都)を見学し、見識と交流を深めた。

## 5. 住宅情報部会 【SDGs 目標：7、9、11、12、17】

傘下3委員会の個別活動を基本としつつ、関連した講演会、施設見学会、研修会等を企画し情報・課題を共有する予定であったが、コロナ禍により開催できなかった。

### 【住宅情報システム委員会】 【SDGs 目標：7、9、12】

- (1) IoT活用事例等として、①東京ガス(株)の「らくらく見守りサポート・もしものたより」、②美和ロック(株)の「新しい戸別宅配システム」、③(一社)電子情報技術産業協会の「スマートホーム普及啓発TF活動報告」、④積水ハウス(株)の「定期点検におけるIT事例」、⑤美和ロック(株)のIoTトータルホームセキュリティ「wiremo」について紹介し、課題を共有した。
- (2) 太陽光発電と蓄電池で電気を自給自足し、雨水貯水と循環生活水で水を自給自足するTOKAI OTSモデルハウス(静岡県島田市)を見学した。
- (3) 委員各社のリフォーム事業の活動実態と課題の共有を行った。
- (4) 「アメニティCafe」からの新規リンクを追加した(東京ガス(株))

### 【テレビ共同受信機器委員会】 【SDGs 目標：9、12、17】

「新4K8K衛星放送」を受信するために必要となるBL部品を用いた3.2GHz伝送システムに関することを中心に、傘下の各WGと連携して様々な検討を行った。

- (1) 技術WG：既存の集合住宅を「新4K8K衛星放送」対応受信システムに改修するための課題解決に向けた検討を行った。高出力型ブースタと直列ユニットをBL部品として提案するため、暫定規格の検討をするとともに、それに基づいて試作した機器の実現性とシステム応用の有用性についての確認試験を実施した。また、国土交通省の「建築設備計画基準」及び「建築設備設計基準」の改訂作業に伴う意見の取りまとめを実施した。
- (2) 普及WG：2021年度に実施した実証試験の報告書「テレビ共同受信システム機器試験報告書—新仕様機器による新4K8K衛星放送の改修システム—」を関係団体に配布するとともに、ALIAのホームページ及び会員向けページに掲載し、BL部品についての周知、普及を行った。また、「アメニティCafe」の更新を行った。
- (3) 統計WG：BL部品に関する出荷統計を毎月とりまとめ、今後の受信システム機器の在り方の調査・検討を行った。

### 【火災・ガス警報委員会】 【SDGs 目標：11、12】

- (1) 消防庁の動向として、①2022年6月1日現在の住警器の全国設置率84%、条例適合率67.4%などの住警器実態状況、②「住宅火災の早期覚知方策のあり方に関する検討部会報告書」にて「連動式は2階建て以上の住宅に有効」、「CO警報機能付は喫煙習慣のある人の寝室に有効」等が提言されたこと、③2021年消防白書による火災状況(火災件数及び死者数は、過去10年間概ね減少傾向であるが、住宅火災の死者数はここ5年位横ばいか少し上昇傾向である等)について紹介した。
- (2) (一社)日本火災報知機工業会からの情報として、①消防向け住警器広報資料の無償提供事業、②工事基準書ハンドブック・非火災報対策マニュアルの改訂、③耳の不自由な人向けの光警報装置、④住警器交換診断シートをオンライン化してスマホ対応を可能にした内容、⑤工業会が住警器の実態調査を行いニュースリリースし

た内容、⑥住警器の点検・交換の促進のために山手線及び大阪環状線へのラッピング電車を春の火災予防運動に合わせて走らせたことについて紹介した。

- (3) ガス警報器工業会からの情報として、①2022年度版「ガス警報器リメイク運動」、②プレゼントとキャンペーン、③ガスエネルギー新聞5月16日号「警報器特集」、④2022年度版「インターネットを活用したお客様の声」を冊子にした内容、⑤「ガスと暮らしの安心運動」について紹介した。
- (4) 新製品・技術情報として、①部屋名も音声で警報する新型無線式連動型住警器(パナソニック)、②火災・ガス・CO警報に熱中症や乾燥の警報を加えた快適スマートウォッチ(新コスモス電機)、③火災時にどう行動すべきかをVR体験できる火災臨場体験「混乱のオフィス」(能美防災)、④IOT警報器「スマピコ」(矢崎ES)、⑤ホーチキ(株)・岩手大学・盛岡地区広域消防組合消防本部による「IT技術を活用した火災通報・連動システムの有効性の検証」の共同研究概要(ホーチキ)について紹介した。
- (5) 東京都の本所防災館で、防災シアター・VR防災体験・地震体験コーナー・消火体験・煙体験などを見学・体験した。

## 6. 給湯・暖冷房部会 [SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17]

担当分野が広範囲に亘るため、各分野での活動は各委員会で主に実施することとし、部会では以下の活動を実施した。

- (1) オンラインミーティングで各委員会の活動状況について情報交換するとともに、部会主催の講演会の内容や講演者候補、実施の時期や方法等について検討した。
- (2) 部会主催の講演会をオンラインで開催し、150名の参加があった(当部会及び傘下委員会、環境部会、外皮部会、開口部会に案内し、ALIAメルマガでも案内発信)。
  - ① 日時：2023年3月3日(金) 15:00~16:30
  - ② 講演者：株式会社リクルート 服部 保悠氏
  - ③ テーマ：「住宅市場の全体市況とカスタマーニーズ」
- (3) 関係団体等との連携
  - ① ALIA運営委員会及び住団連を介して、国交省への政策要望を提出した。
  - ② 部会を代表して部会長が環境部会に参加した。
  - ③ 部会長が、「住宅における良好な温熱環境実現推進フォーラム」の運営委員会に関係者として参画した。

## 【ガス給湯委員会】【石油給湯委員会】【ソーラーシステム委員会】

[SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17]

- (1) 国の政策動向として、①改正省エネ法(省エネルギー小委員会、工場等判断基準WG)、②改正建築物省エネ法(建築物エネルギー消費性能基準等小委員会)、③こどもエコすまいる支援事業、④住宅省エネリフォーム支援事業、⑤建築物を販売・賃貸する際の省エネ性能の表示ルールなどについて、情報共有と意見交換を行った。
- (2) ガス石油機器工業会(JGKA)による高効率給湯機推進プロジェクト活動について、情報共有と意見交換を行った。
- (3) 2023年度に向けた国交省への政策要望案件(住団連経由)の共有と、2024年度に向けた政策要望案件の議論・提出を行った。

- (4) B Lの「ガスとお湯の50年プロジェクト」及び「人生100年対応住宅部品研究会」の計画等、「公共住宅建設工事共通仕様書」改訂に対する意見募集などについて、情報共有と意見交換を行った。
- (5) パナソニックセンター東京「未来区」(有明)の見学会を行った。

**【電気給湯委員会】** [SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17]

- (1)「ガスとお湯の50年プロジェクト」デジタルブック版の内容共有を行うとともに、B L部品関連業務の中長期戦略の検討状況について情報共有・意見交換を行った。
- (2) 住宅の省エネ基準適合義務化、ZEH 普及などの省エネ性能向上に関する施策や給湯機器の省エネ関連基準(トップランナー基準、建築物省エネ法)の見直しなど国の動向について情報共有化を行い、対応機器の性能・機能の向上及び高効率給湯機の普及拡大に向けた取組み等について意見交換を図った。
- (3)「アメニティCafe」の関連情報の更新の必要性についての意見交換を行った。
- (4)「羽田空港ANA機体工場」、「IHI企業ミュージアムi-muse」への見学会を実施した。

**【暖冷房システム委員会】** [SDGs 目標：3、7、9、11、12、13、14、17]

- (1) こどもエコすまいる支援事業、建築物省エネ法、ZEH 関連施策、公共住宅建築工事共通仕様書の改定への意見募集 など、国の動向に関する情報共有を行った。
- (2) B L認定基準の改正、「ガスとお湯の50年」発行及びシンポジウム、人生100年対応住宅部品研究会、「水回りの良好な温熱環境の実現に資する製品リスト」更新、つくば建築試験研究センターの大型恒温恒湿試験装置などのB L関連情報を共有した。
- (3) 東京ガス(株)が中心となり発行される「ヒートショック対策」小冊子、リンナイのニュースリリース「家庭用給湯器において世界で初めて水素100%燃焼の技術開発に成功」など会員各社からの情報を共有した。
- (4) 大阪府吹田市「Suita サスティナブル・スマートタウン」及び大阪ガス「hu+gMUSEUM(ハグミュージアム)」を見学した。

**7. 開口部会** [SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、15、17]

アルミサッシ委員会と合同での成果発表会の開催の他、傘下の各委員会、関連する各部会・委員会及び(一社)日本サッシ協会の活動情報を共有し、当部会の活動に対する方向性や課題等を共有した。

**【スチール部品委員会】** [SDGs 目標：7、12]

- (1) B L関連情報及び各専門部会・委員会の活動情報を共有した。
- (2) 玄関ドア用錠前のB L認定基準等の改正を踏まえ、用語の定義の主錠の整理、電気錠の性能についての誤解錠防止対策などについて、周知活動を行うこととした。
- (3) ポスト付き玄関ドアの断熱性能について、委員会内で意見交換を行った。

**【手すりユニット委員会】【補助手すり委員会】** [SDGs 目標：11、12、17]

- (1) B L認定基準に関し、「隔板」の基準制定、「墜落防止手すり」の基準改正などの

情報共有を行うとともに、「墜落防止手すり」の基準の制定時（1975年）からの時系列の改正履歴資料（BL作成）を協議・確認し、共有を行った。

- (2) 子供のベランダからの転落防止のための手すりの安全対策の検討として、東京都発行の手すりの注意喚起リーフレットの活用方法を協議し、2023年度の検討テーマとした。
- (3) 特定住宅部品にかかる優良取替事業の登録・更新における事業者への周知を、BLと連携して行った。

#### 【断熱型サッシ委員会】 [SDGs 目標：3、7、8、11、12、13、14、15、17]

- (1) 建築物省エネ法・ZEHなど省エネ性能向上に関する施策や、リフォーム需要の顕在化・拡大へ向けた国のリフォーム関連施策、リフォームに関する新技術・消費者ニーズなどに関する情報の共有を行った。
- (2) 「アメニティCafe」からユーザーが望む情報を発信できるよう、掲載内容の見直し検討を行った（反映は2023年度予定）。
- (3) 「WindEye」のバージョンアップ情報及び簡易計算版・WEP版開発の検討状況等や、「住宅部品点検の日」活動の推進に向けた情報の共有を行った。

#### 【アルミサッシ委員会】 [SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17]

- (1) ①換気機能付きサッシ・ドア（省エネ効果、感染予防対応）、②抗菌・抗ウイルス基準適合建材（ドアノブ、ドアハンドルなど）、③防災・レジリエンス対応（防災シャッター、止水板、防災安全ガラスなど）、④窓・ドアの断熱改修（外窓交換、内窓設置などの省エネ効果・課題）などに関する情報収集を行い、開口部会と合同で活動報告会を開催し、情報共有を行った。
- (2) 省エネ性能向上に関する国の施策及び住宅の温熱環境に関する情報や、開口部会の各委員会や関連する専門部会の活動内容、（一社）日本サッシ協会のビルサッシ委員会の活動内容及び技術情報、BL認定基準の制定・改正などの情報を収集・共有した。
- (3) 東京都大田区の「ANA機体工場」を視察した。

### 8. 外皮部会 [SDGs 目標：3、7、11、12、13、14、17]

- (1) 高性能な外皮仕様の普及啓発

#### ① シンポジウム・勉強会の開催

- 1) 工務店・設計事務所向けのWEBセミナーを11月2日に開催し、約160名が聴講した。

- ・基調講演Ⅰ：「最近の住宅・建築物の省エネ対策の動向」国土交通省住宅局 渡邊推進官

- ・基調講演Ⅱ：「住宅の断熱性能向上の意義」 芝浦工業大学 建築学部長 秋元先生

- ・外皮部会報告 推奨外皮性能の解説（各委員）

- 2) （一社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）と意見交換（3回）し、「断熱・省エネ」をテーマとしたNACS会員向けのWEBセミナーの企画を進めた。

- ① 「外皮ってなに？」パンフレットと説明用パワーポイント資料をベースに、11月2日のWEBセミナー用資料を改訂した(住宅生産者・設計事務所向け)。また、NACSメンバーと意見交換し、一般消費者向け資料の作成を進めた。
- (2) 「外皮ってなに？」パンフレットの2021年改訂版を「アメニティCafe」に掲載した。
- (3) 住団連などの資料を元に、国や地方公共団体などの関連施策などの情報を共有した。
- (4) 金沢市の室生犀星記念館、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館、鈴木大拙館を視察した。

## 9. 共同設備部会

### 【給水ポンプシステム委員会】 [SDGs 目標：12]

- (1) 給水ポンプシステムの維持管理の重要性啓発活動として、東管新聞の10月号に、予防保全・保守点検の重要性について広告を掲載した。
- (2) 通信機能を有した、「常時監視型」及び「随時点検型」の監視機能付き製品のB L-bs 基準の検討に協力した。
- (3) 鹿児島県エネオス喜入石油備蓄施設を見学し見識を深めた。
- (4) 「アメニティCafe」充実に向け、写真データの更新の有無を各委員に確認した。

### 【給水タンク委員会】 [SDGs 目標：11]

- (1) 給水タンク安心支援サービスについて、登録から5年経過したユーザーに対し点検案内を送付したが、問い合わせ件数が伸び悩んでいるため、既設水槽のユーザーにも対象範囲を拡大してはどうかとの意見もあがった。
- (2) 「アメニティCafe」について、水槽の重要性周知を目的に「新水槽ビジョン<平成28年版>」の内容をダウンロードできるよう改修した。
- (3) 防災を切り口とした給水タンクに求められる新機能調査の一環として、新規用途探索に向け、他の部会・委員会の活動等も参考に、マンション管理センター通信に寄稿して点検啓発を行う事とし、「給水タンクの重要性と維持管理」の題目で原稿を完成させた。

### 【エレベーター委員会】 [SDGs 目標：9、12]

- (1) 2021年度にまとめた「エレベーターにおける社会要請調査報告書」に基づき、エレベーター業界として積極的に普及させたい仕様や機能について、B L部品認定基準の必要要求事項への追加の提言をとりまとめた。
- (2) 今後のエレベーターの在り方について、SDGs を意識して考えるための機会の創出を目的とし、「ガスの科学館」を見学した。
- (3) 公共住宅事業者等連絡協議会等からの依頼事項に対応した。

## 10. アウトドア部会

### 【屋外収納ユニット委員会】 [SDGs 目標：12]

- (1) 日本屋外収納ユニット工業会でガレージの購入前に必要情報や点検項目案を作成し、当委員会にて検討案を討議・修正を行い、文章・イラスト等を含め最終校正

を経て、工業会ホームページに掲載された。

- (2) 鋼製物置に求められる地震力に対する耐久性を制定するにあたり、耐震試験方法や測定方法等を討議し、1体目の試験を3月24日に実施した。
- (3) (一社)プレハブ建築協会の要請により、応急仮設住宅向けの屋外収納ユニットの生産供給可能数について調査し、12月末に集計結果を報告した。
- (4) JAXA 筑波宇宙センターの見学を実施した。

#### 【郵便受箱委員会】 [SDGs 目標：9、11、12]

- (1) 日本郵便への意見書を作成して意見交換会を実施した。後日回答を頂いてそれに対する議論を行った。
- (2) 二次元コード付BLマーク証紙の導入に向けて意見交換を行い、運用までの準備が整った。

#### 【宅配ボックス委員会】 [SDGs 目標：7、8、9、11、12]

- (1) 日本郵便への意見書を作成し、意見交換会を実施し、回答について議論を行った。  
「3階建て以上のマンション等に設置されている共有のロッカー型宅配ボックスへのゆうパックの配達は、依頼書の提出は必須ではありません」について、ホームページへの記載を確認した。
- (2) 「多彩なライフスタイルを支える持続可能な宅配実現に向けた手引き（国土交通省総合政策局物流政策課）」や「宅配便の再配達率」について共有し、再配達率が下がらない原因について意見交換した。
- (3) 「こどもみらい住宅支援事業」へのフォローとともに、「こどもエコすまい支援事業」について、要件見直し、住宅省エネ2023キャンペーン、建材・設備の型番登録スケジュールなどの情報を共有した。

### 11. 換気・配管システム部会

#### 【換気ユニット委員会】 [SDGs 目標：3、7、12、13、14、17]

- (1) 消費者を対象に「24時間換気に関する意識調査」を実施。委員会で調査内容項目の精査などを行い、各社商品の開発につなげられるようなアンケート調査ができた。
- (2) 積水ハウス納得工房（京都府）の見学会を実施。換気だけでなく家づくり全体の知見を深める機会となり、委員間の交流も図れた。

#### 【配管システム委員会】 [SDGs 目標：9、12、17]

- (1) 使用者がBL保険について深く理解出来るように、配管システムにおける保険適用範囲の確認と、具体的事例の発信方法を検討した。
  - ・BL保険の概要を委員会内で共有するための確認作業
  - ・想定される具体的な事件事例集の作成
  - ・保険会社と面談して事件事例の保険適否の判断基準を共有
  - ・アウトプット方法についての検討
- (2) 講演会の実施（WEB開催）
  - ① テーマ「国内水道水中マイクロプラスチック存在実態と発生源推定」
  - ② 講師：千葉工業大学 亀田豊先生



## Ⅶ. その他の委員会等

### 1. 窓の熱性能審査委員会〔SDGs 目標：7〕

- (1) 「WindEye」へのフレームデータ登録に必要な知識についての講習会を行った（6月10日、4社6名が参加）。
- (2) 「WindEye」新機能（逆引き計算機能）について、年度前半に運用を開始し、後半には、より使いやすくなるよう機能拡充の検討を行った。
- (3) 「WindEye」の利便性向上のため、遮蔽物について、縦型ブラインドを計算対象に追加する検討を行った。
- (4) 「WindEye」の改良検討
  - ① 操作性向上のため、部材の選択フローの見直しを検討した。
  - ② 活用促進のため、窓のエネルギー性能 WEP 評価の追加検討を行った。
  - ③ 定期的なバージョンアップに向けた検討を行った。
- (5) 新規登録数（3月末時点）
  - ・フレーム：144 窓種、1,153 断面
  - ・ガラス：基礎データ 17 点
  - ・遮蔽物（ブラインド）：4 点

### 2. 統計ハンドブック編集PJ〔SDGs 目標：12〕

住宅部品に係る市場動向と市場規模の変化を的確に把握するため、統計データを時系列に収集・整理し、今後の市場動向を加味した「2022年版 住宅部品統計ハンドブック」を作成し、会員をはじめ関係団体等に広く情報提供した。

- ・住宅部品（商品収録数：61分野94品目）の統計データ。
- ・2022年度版より浴室換気乾燥暖房機（電気式）を追加。
- ・業界統計等で金額のない品目は単価を推定し金額規模を算出。
- ・原則として国内全出荷数量のデータを掲載し、住宅用推定比率より、住宅部品の全体市場規模を算出。

注) 各部会・委員会等の活動のうち、2023年度事業計画の立案や、「住宅部品統計ハンドブック」へのデータ提供などの共通事項については、個別の記載を省略した。